

R3 年度関西西部会講演要旨原稿作成要領（昨年度と同じです）

<全体の大きさ>

- ・和文講演者氏名から所属略称までが、縦73 mm，横161 mm の枠に収まるようにする。
- ・1つのファイルに収める講演要旨原稿は1つとすること。

<ページ設定>

- ・用紙サイズ：A4用紙，縦方向。
- ・余白：上 15 mm，下 30 mm，左 25 mm，右 25 mm。
- ・文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数50，字送り9 pt，行数51，行送り14 pt。

<配置>

両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

<フォント>

- ・フォントサイズ：すべて9 pt。
- ・日本語用フォント：平成明朝またはMS明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたはMSゴシック）。
- ・英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。
- ・句読点：「，」「。」
- ・イタリック指定：題目，本文中とも，学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名>

（1行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り，発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には，上付き番号「¹」「²」で区別する。

<和文題目>

（2行以内）フォントは平成角ゴシックまたはMSゴシックとする。

<英文講演者名と英文題目>

（2行以内）氏名は，family name，first name initial，middle name initial の順に書き，initialの間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は，コロン「:」で区切る。

<本文>

9行以内で記載する。

<所属略称>

（1行）括弧「（）」に入れ，右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り，和文講演者氏名に対応させて上付き番号「¹」「²」をつける。

講演要旨原稿の例（本文は9行以内を厳守!）

○夏目英哉・高原浩之

Brassica rapa における炭疽病抵抗性遺伝子の探索

Natsume, H., Takahara, H: Search for anthracnose resistance genes in *Brassica rapa*.

アブラナ科植物炭疽病菌 (*Colletotrichum higginsianum* : 以下, 炭疽病菌) は, アブラナ属, ダイコン属などを宿

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

考えられた. (本文9行以内厳守!!!)

(石川県大院)

- (1) 発表希望分野 (「菌類病」, 「細菌・ファイトプラズマ病」, 「ウイルス・ウイロイド病」, 「植物保護」)
- (2) 発表内容 (「分類・同定」, 「検出・診断」, 「病原体の性状」, 「発生生態」, 「感染生理」, 「病原性・抵抗性」, 「防除薬剤・薬剤耐性」, 「生物防除・防除法」, 「その他」)
- (3) 対象植物 (和名または学名)
- (4) 対象微生物 (和名または学名)
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者のE-mailアドレス
- (7) 発表者の学会会員番号

○夏目英哉・高原浩之

Brassica rapa における炭疽病抵抗性遺伝子の探索

Natsume, H., Takahara, H: Search for anthracnose resistance genes in *Brassica rapa*.

アブラナ科植物炭疽病菌 (*Colletotrichum higginsianum* : 以下, 炭疽病菌) は, アブラナ属, ダイコン属などを宿主

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

考えられた. (本文 9 行以内厳守!!!)

(石川県大院)